

絆

題字
堤 美幸 前理事

(新潟市青少年育成協議会創立60年の節目を契機に第12号から題字を刷新しました。)

新潟市
青少年育成協議会

第13号

●発行●
令和5年1月18日

●事務局●
新潟市教育委員会
地域教育推進課

子どもに寄り添う 活動を目指して



新潟市青少年育成協議会
会長 郷 扶二子

新年あけましておめでとございませす。関係団体の皆様には、日頃より当会の活動にご理解とご協力をいただき感謝申し上げます。

コロナ禍での活動も三年目を迎えました。当初に比べワクチン接種等の感染拡大防止対策が進み、私たちの活動も工夫しながら以前のように展開することができようになってきました。しかしながら、コロナ禍の時代を経たことで活動の目的や内容を精査し、今の時代に合ったものにベクトルを修正していくということにも大いに「苦労されていることと推察いたします。」

青少年の健全育成にかかわる私たちは、どんな時代になろうとも、目の前の子どもたちの心にしっかりと寄り添う活動を実施し、地域の中の子どもとおとなの活動を通して、笑顔の花をたくさん咲かせることが大切なことと思えます。「健康とは自分の力を十分に発揮して

いる状態」と、今年度実施された新潟市青少年健全育成講演会において講師の碓井真史教授（新潟青陵大学）がお話をされています。碓井教授によれば、子どもたちにとって幸せな状態とは、活躍の場がたくさんあり、それぞれの場で誰かに必要とされ、誰かのために役立っているという実感をもつことが大切だということです。私たち青少年育成協議会はそれぞれの地域で、そんな場や機会を作り提供する役割があるのだと思います。

今年度から「新潟市子ども条例」が行われました。その中の一つとして、子どもの意見表明権が挙げられています。おとなたちだけが物事を決めるのではなく、いろいろな場面で子どもたちの声を聞く機会を増やしながらか活動を展開していくことをこれまで以上に考えなければなりません。

新しい時代の新しい活動を作り上げていくという難しい社会の流れの中ですが、新潟市の子どもたちが幸せな子ども時代を過ごせるように皆様とともに力を注いでいきたいと思えます。これからも皆様方の変わらぬご活躍を祈念いたします。どうぞ今年もよろしくお願いたします。

令和四年度 県・市功労者表彰受賞者紹介

青少年健全育成功労者新潟県知事表彰

有明台小学校地区 関川 弘雄様

平成十九年度から有明台小学校区青少年育成協議会会長、平成二十八年度から同校区コミュニティ協議会会長をそれぞれ務めています。また、新潟市青少年育成協議会の理事及び正副会長を十二年間務め、非



青少年健全育成県民大会にて表彰される関川様
功労者表彰
新潟市青少年育成協議会

新潟市青少年育成協議会 功労者表彰

南浜地区 玉井 孝一様

平成二十四年から十年間にわたり、当協議会の会長を歴任し、当会の運営・発展に大きく貢献しました。また、新潟市青少年育成協議会の理事を二期務めました。

育成活動に尽力し、当会の活性化に果たした功績は非常に大きいといえます。

秋葉地区 杵鞭 義夫様

平成十九年四月から令和二年三月までの十三年間にわたり、秋葉区青少年育成協議会事務局長として、青少年の健全育成を推進してきました。勤務のかたわら、青少年の健全育成活動に特別の理解を示し、満日コミュニティ協議会はもとより、秋葉区青少年育成協議会の活動に今も尽力し、他の模範となっております。

中之口地区 酒井 博史様

平成二十九年より中之口地区青少年育成協議会の副会長として、事業の計画・実行・

改善等の一連の取組について責任感と行動力で陰ながら会長や組織を支えました。副会長に歴任されてからは夏休み期間中の「青少年体験事業」を始め「餅つき大会」「ふるさとかるた大会」等、地域に根差した事業を成功させるため、組織を盛り上げました。今後青少年育成協議会の活動だけでなく、地域活性化の担い手として活躍が期待されています。

中之口地区青少年育成協議会様

昭和六十二年設立され、今日まで地域の青少年の健全な育成を図るため、関係団体の協力を得ながら様々な事業を展開し活動してきました。

また、近隣の各地区青少年育成協議会とも連携を図りながら、西蒲区管内JR駅前での防犯活動を実施し、中之口地区だけでなく幅広い活動も行っており、新潟市内各地区育成協の中でも積極的に活動している団体です。

近年では、新型コロナウイルス感染症や少子化等で事業はできずにあります。昨年度、西蒲区小・中学校PTA正副会長から中之口地区に来ていただき「コミュニティ・スクール」と「ネットトータル」についての研修会を実施しました。多数の参加者から喜んでいただきました。

受賞おめでとうございます。



(前列右から)

玉井 孝一様

杵鞭 義夫様

酒井 博史様

中之口地区
山上海長

(後列右から)

郷 扶二子 会長

後藤 課長

五十嵐 副会長

わたしの主張 新潟市地区大会

八月二十日(土)、黒崎市民会館を会場に、わたしの主張新潟市地区大会を開催いたしました。市内の中学生八百二名の応募の中から選ばれた八名が、日ごろ考えている思いを熱く語りました。

司会は、小新中学校二年石川結生さん、佐藤夢亜さんが務めました。

審査の結果、最優秀賞は、曾野木中学校一年江口蒼さんが、優秀賞は、新潟明訓中学校三年熊野りん花さん・曾野木中学校一年本間心結さんが、それぞれ受賞しました。



発表者、司会者及び審査員による記念写真

新潟市地区大会最優秀賞



「障がいは不幸…?」
新潟市立曾野木中学校
一年 江口 蒼

「早く行きたいな。楽しみたいな。」
これは、わたしの弟がいつも言う言葉です。どこに行きたいのか、何が楽しみな

(発表順・敬称略)

“わたしの主張”発表されたみなさん

学校名	学年	氏名	発表テーマ
藤見中学校	3	小岩 遼子	挑戦してみようかな
内野中学校	3	高島 俐青	将来の自分を変えられるのは今の自分
黒崎中学校	3	江端 小雪	誰もが暮らしやすい未来へ
小合中学校	2	栗原 颯希	僕も誰かを支えたい
○曾野木中学校	1	本間 心結	絵本を届けることから…
内野中学校	3	西村 弥桜	誰もが楽しく学校に通えるように
○新潟明訓中学校	3	熊野りん花	手が届くまで
◎曾野木中学校	1	江口 蒼	障がいは不幸…?

◎最優秀賞 ○優秀賞

かというところ、それは「学校」であり、「バスケの練習」であり、または「家族での外出」であり、さまざまです。ここまで聞いて、「えっ、そんなのあたりまえでしょ。」と感心した人も多いと思います。では、なぜわたしがわざわざ弟の紹介をしたのか。それは、障がいのある人も、みなさんと変わらずに、積極的に充実した生活を送っている、ということを伝えたいからです。

わたしの小学五年生になる弟は、生まれつき足が不自由で、車椅子で生活しています。足が不自由なため、一人で階段を上り下りしたり、登下校したりはできません。学校に行くときは家族が車で送迎し、どうしても階段を上り下りしなければいけないときは、誰かに手伝ってもらったりします。でも、それ以外では、みんなと同じように学

校で勉強したり、友達とゲームをしたり、また家では普通にご飯を食べたり、着替えをしたり、自分ができるお手伝いをしたりしています。わたしとは姉弟げんかだっただけです。弟は、いつも楽しそうにしています。いえ、人一倍楽しそうにしているといっているでしょう。その理由は二つあります。

一つ目は、「車椅子バスケット」です。弟は新潟市でやっている車椅子バスケットのチームに入っていて、そこで週に二、三回練習をしています。そのチームからは、日本代表選手が何人も出ていて、弟は「僕も、将来車椅子バスケットの選手になるんだ」と、熱心に練習に取り組んでいます。

もう一つは、学校生活です。弟は特別支援学校ではなく、普通の小学校に通っています。学校で他の生徒と一緒に授業を受け、友達と遊んだり行事に参加したり、「ごく当たり前に学校生活を送っています。しかし、車椅子のため、やはり他の人の助けが必要なものもあります。例えば、清掃の時、弟は車椅子に座っているため、高いところには手が届きません。黒板消しを担当したとき、周りの友達が弟の手の届かないところを消してくれたりします。また、弟の姿を見ると友達が無言で寄ってきてくれて、「大丈夫?これ、持つね。」と、荷物を持ってくれたり、いろいろ助けてくれるのだそうです。また、先生方も、階段の上り下りの補助や、その他いろいろ配慮をしてくださるそうです。そういった話を、弟はいつも夕食のテーブルで、目をきらきらさせながら楽しそうに話してくれます。

そんな、何事にも積極的な弟ですが、家族で買い物に行ったときに、車椅子に乗った弟の姿を、他のお客さんがシーツと見ることがあります。そういうことはよくある

のですが、わたしには不思議でなりません。確かに少し目立つかも知れませんが、それ以外は全く普通です。かわいそうでも何でもありません。むしろ、弟は誰よりも朗らかで前向きに生活しています。障がいは、決して「不幸」ではなく、ただ、ちょっと「不自由」なことがあるだけです。それも、周りの人が少し手助けをしてくれば克服できることなのです。しかし、「不自由」なことは決して良いことではありませんし、少しでも「不自由さ」が解決できるのならそれは越したことはありません。

最近では、主立った公共施設には車椅子用のスロープが設置されていたり、エレベーターにも車椅子用に低い位置にボタンがついていたりしますが、まだまだ完全なバリアフリー化はされていません。現に今わたしが通っている中学校には、エレベーターも昇降機もありません。世の中には、車椅子の人だけでなく、視覚障がいや聴覚障がいの方も大勢いらっしゃいます。そういう障がいを持った方に対応した施設やお店がもっと増えて、誰にとっても便利で優しい社会になってほしいです。そして、障がいを持った人を特別視するのではなく、温かく見守り、必要な時にはさりげなく手助けする。そういう人が多くなって、「心のバリアフリー」も、もっともっと広がってほしいと思います。

弟は、つぎに一度病院に通い、脚の機能を回復させるリハビリを続けています。そのおかげで、今は数歩なら補助なしで歩けるようになっていきます。

わたしの将来の夢は、医師になることです。けがをしたり病気になったりした人を少しでも治してあげたい。そして、その人の人生に笑顔と希望を届けられるようになりたい。わたしの弟のよう。

各区青少年育成協議会の活動紹介



秋葉区

秋葉区育成協では、11月12日に「あきは未来フォーラム」を秋葉区文化会館で開催し、青少年健全育成に係る功労者表彰などを行いました。



北区

岡方地区育成協では、各自治体と連携し、岡方中学校の生徒と共にマリーゴールドの植栽事業「岡方花の陣」を行いました。



南区

「大凧のように天高く舞い上がれ！」白根第一中学校区育成協では、学校・凧組が一体となって、伝統行事「白根大凧合戦」への参加・協力を行っています。今年は全校を縦割りにし、異学年で協力しながら活動しました。



東区

大形地区育成協では、五頭山麓で小学生対象に『沢登り体験』を企画しましたが、当日は悪天候の為『火起こし体験』に変更し開催しました。



西区

小針小学校区育成協では、9月に「小針納涼大会」を開催しました。3年ぶりの開催に、約1500名の参加者があり、地域の交流を深めていました。



中央区

寄居地区育成協では、11月に「生き方講演会」を実施しました。この講演を通して、生徒たちは、認知症について理解を深めることができました。



西蒲区

岩室地区育成協では、小学生の夏休み体験として「物作り教室～竹灯籠～」を7月24日(日)に行いました。自然の材料を使った物作りの楽しさ、親子で協力しながら作業することを学びました。



江南区

両川地区育成協では、4月20日に両川小でチューリップの花絵作りを行いました。児童全員で、少しずつ分担して製作しました。

非行・被害防止キャンペーン2022

青少年の非行・被害防止全国強調週間の取組として、七月九日(土)に、街頭PR活動を実施しました。今年度も、各地区育成協会員や青少年関係団体等から、約九十名の皆様のご参加をいただきました。

今年度も、感染予防の観点から配布活動のみを行いました。新潟駅や万代シテイ周辺で、啓発グッズの除菌ティッシュ



街頭PR活動の様子

約二千セットを配布しました。関係団体の子どもたちの元気な呼び掛けに、受け取る市民や旅行者の方からも自然と笑顔が溢れていました。

標語・ポスターコンクール —入賞作品—

青少年の非行・被害防止全国強調週間の取組として、標語及びポスター(イラスト)を募集しました。

テーマは、「万引き防止」と「インターネットの正しい利用」です。市内の小中学生から標語部門二百九十点、ポスター部門百十四点の応募がありました。

審査の結果、次の作品が入賞しました。

標語部門 (敬称略)

◆万引き防止の部

- 《最優秀賞》 白根小六年 本多 可歩
- 「万引きをすまないといいよ」 『万引鬼』だ

- 《優秀賞》 山の下中三年 渡辺 咲来
- 「手を止めてあなたの行動見直して」

- 《優秀賞》 木崎小五年 高橋 瑚白
- 「おとながねしてはいけない まねするよ」

◆インターネットの正しい利用の部

- 《最優秀賞》 山の下中一年 菅野 空
- 「ごせなら見た人みんな 笑顔がいい」

- 《優秀賞》 関屋小六年 飯島 佳央
- 「一押しで情報拡散傷一生」

- 《優秀賞》 山の下中一年 赤澤 光
- 「みなおして本当にいいの? その言葉」

◆ポスター部門 (敬称略)

◆万引き防止の部

- 《最優秀賞》 木崎小五年 古沼 里菜
- 《優秀賞》 升瀧小六年 田中 康星
- 《優秀賞》 山の下中一年 川島 琉生



最優秀賞 古沼さん



優秀賞 田中さん



優秀賞 川島さん

◆インターネットの正しい利用の部

- 《最優秀賞》 白根第一中二年 立川 結賀
- 《優秀賞》 升瀧小六年 渡辺 葵花
- 《優秀賞》 白井小六年 土田 瑠々



最優秀賞 立川さん



優秀賞 渡辺さん



優秀賞 土田さん

新潟市青少年健全育成講演会

十月一日(土)に、万代市民会館で新潟市青少年健全育成講演会を開催しました。(主催・新潟市青少年育成団体連絡会議)



講師 碓井 真史様

新潟青陵大学大学院の碓井真史教授から「若者の心の健康とコミュニケーション」という演題でご講演をさせていただきました。

井教授の話術に引き込まれ、充実した時間を過ごすことができました。「若者にどのような接することが効果的で自分には何ができるのかを考えるよい機会になった。」「若者に合った環境を整えることの大切さを学んだ。」等の感想が多数寄せられました。

参加された方々が講演の内容を生かして、若者の健全育成活動にさらに邁進しようとする機運が高まりました。

会長・事務局研修会



講師 小見まいこ様

十一月一日(火)、黒崎市民会館において会長・事務局研修会を開催しました。

前半は、「子どもを取り巻く課題をみんなで解決する」と「子どもの声を聞く」ことだと強調されました。今後のCSを通じた育成協の活動を一層充実させることにつながるヒントをたくさん見出すことができました。参加者からは、「CSが始まったが、本当にこのやり方で良いか不安になっていた。実践紹介を伺い、児童や生徒が生き生きと活動する姿にあこがれをもった。自校でも自信をもって進めたい。」等の意見が寄せられました。

後半は、CSの現状やコロナ禍での各育成協の取組をグループに分かれて話し合いました。参加者からは、「他地区の現状や課題を知り、今後の取組の参考にすることができた。」等の意見が多数寄せられました。



熱心なグループ討議

*新潟市青少年育成協議会は新潟市からの補助金を受けて運営しています。